

エコアクション21

2018年度 環境活動レポート



活動期間
2018年7月～2019年6月(12版)

2019年8月23日

久保田建装株式会社

1. 組織の概要

1-1. 事業の概要

(1)法人名及び代表者	久保田建装株式会社 代表取締役社長 大石 剛
(2)事業の種類	建設業(塗装工事を主とした専門工事業) 国土交通大臣許可(特-29)第2178号----塗装 " (般-29)第2178号----土木、建築、大工、左官、とび・土工、屋根、 " ----ほ装、板金、ガラス、防水、内装、建具 " ----石、タイル・れんが・ブロック
(3)事業所の所在地	本社 東京都世田谷区瀬田5-3-6 TEL03-3707-2585 FAX03-3707-2039 メールアドレス tokyo@kubotakenso.com 本店 静岡市駿河区西脇342-1 TEL(代表)054-202-2722 FAX054-202-2725 メールアドレス m.r-kubotakenso@ny.tokai.or.jp 浜松支店 浜松市東区上新屋町139-1 TEL053-464-4378 FAX053-463-4660 メールアドレス kuboken-hamamatsu@nifty.com 名古屋支店 名古屋市名東区極楽4-1205 TEL052-703-5220 FAX052-704-5619 メールアドレス kuboken-nagoya@hkg.odn.ne.jp 沼津支店 沼津市岡宮1330-4 TEL055-924-5254 FAX055-924-5074 メールアドレス kuboken-numazu@ny.tokai.or.jp 沖縄出張所 沖縄県宜野湾市真志喜 1-11-10 TEL098-890-0285 FAX098-890-0287
(4)環境管理の責任者	環境管理責任者 山田 稔(総務部長) エコ21サポート役 木村 英二(工事長) 事業所責任者 各支店長
(5)連絡担当者	環境管理責任者 山田 稔(総務部長) TEL054-202-2766 FAX054-202-2725 メールアドレス m.r-kubotakenso@ny.tokai.or.jp
(6)有資格者	土木施工管理技士(1級2名、2級14名) 建築施工管理技士(1級3名、2級9名) 監理技術者9名 有機溶剤作業主任者 27名 酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者 25名 その他有資格者多数

2019年6月30日
久保田建装株式会社 環境管理責任者

1-2 事業の規模

活動規模	単位	2012年	2013年	2014年	(基準年度) 2015年	2016年	2017年	2018年
売上高	百万円	2,343	2,708	2,907	2,788	3,043	3,052	3,239
総職員数	人	41	42	44	45	44	44	41
床面積 本 社	m2	99	99	99	99	99	99	99
本 店	〃	425	425	425	425	425	425	425
浜松支店	〃	273	273	273	273	273	273	273
名古屋支店	〃	181	181	181	181	181	181	181
沼津支店	〃	231	231	231	231	231	231	231
合 計	〃	1,209	1,209	1,209	1,209	1,209	1,209	1,209
工事件数	件	1,086	1,388	1,198	1,180	1,209	1,169	1,253
自動車保有台数	台	33	35	36	35	33	34	31

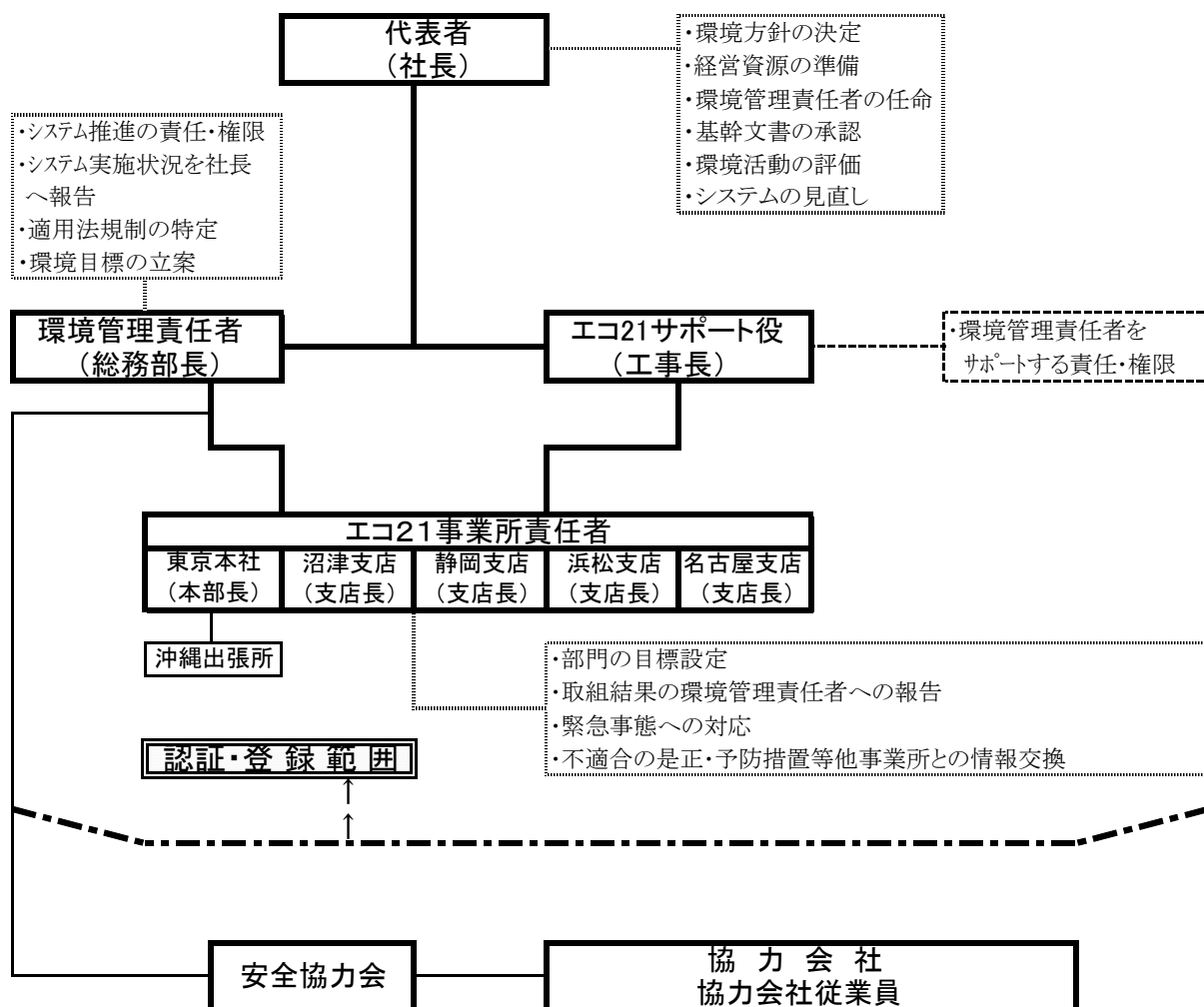
2019年8月23日

久保田建装株式会社 環境管理責任者

2.対象範囲(認証・登録範囲)

エコアクション21環境経営システムを構築・運用し、環境への取組を実施するため、下記の組織で臨みますので、各自の役割・責任を自覚し、全員の力で結果を出していきたいと思えます。なお、協力会社等にも必要な協力をお願いすることもありますので、その点も留意しておいてください。

エコアクション21実施・運用組織図



2018年7月1日
久保田建装株式会社 環境管理責任者

3. 環境方針

【環境理念】

大量の化石燃料の消費やゴミの焼却等から発生するCO2(温室効果ガス)による地球温暖化は、海面上昇による陸地の水没や多くの動植物の絶滅等極めて憂慮すべき状態を引き起こしており、人類の英知をもってこれを食い止めなければならない深刻な問題です。

当社は、従来から、都市美化推進会社を「キャッチフレーズ」にし、快適で美しい環境づくりを永遠のテーマとして事業活動を進めてきましたが、これを更に環境保全の分野に広め、一層の環境に配慮した事業活動を推進します。

【基本方針】

当社は、環境理念に基づいた環境経営システムを構築し、環境負荷を軽減すると共に、環境に配慮した活動に取り組めます。そのために、次項を実行することによって、継続的な改善と汚染の予防に努めます。

1. 環境負荷の低減と環境保全活動への取組

- 1) 省エネ(電気・化石燃料)推進によるCO2削減への取組
- 2) 廃棄物の3R(Reduce/Reuse/Recycle)推進による排出量削減
- 3) 用水使用量の削減
- 4) 化学物質(シナー等)使用量の適正化、及び環境に配慮した施工と完成物件の提供
具体的には、水系塗料の使用比率の向上、光触媒塗料・遮熱塗料施工の提案、施工を推進します。
- 5) グリーン購入の推進

2. 環境関連法規制等の遵守

環境関連の法規制等を遵守し、法規制に対し、責任・信頼感のある企業を目指します。

3. 環境コミュニケーションの積極的実施

社外においては、環境活動レポートを公開し、利害関係者とのより良いコミュニケーションを実践します。

社内においては、全従業員にこの環境方針及び必要事項を周知し、全社員参加による取組を目指します。協力会社従業員にも参加・協力を求めます。

制 定 2008年7月25日
2次改訂 2010年4月 1日

久保田建装株式会社 代表取締役社長 大石 剛





4. 環境目標(対基準年度=2015年度)

綱目	単位	基準値	目標		2019年度	2020年度	2021年度
			%	目標値	目標(%)	目標(%)	目標(%)
購入電力	KWH	71,335	-2	69,908	-2	-2	-2
ガソリン使用量	リットル	79,800	-2	78,204	-2	-2	-2
都市ガス使用量	Nm ³	846	-2	829	-2	-2	-2
紙使用量	トン	760	-2	745	-2	-2	-2
水使用量	m ³	506	-2	496	-2	-2	-2
産業廃棄物排出量	-	*****	3 R		3 R	3 R	3 R

- ★ CO2総排出量のうち82%を占めるガソリン使用量は、基準年度を含む過去3年間、原単位である平均燃費は14年度15.31(km/ℓ)、基準年度15年度17.65(km/ℓ)、16年度17.94(km/ℓ)と向上していますが、使用量は基準年度が過年度で最大値となりました。13年度より燃費の良いエコカー(=ハイブリッド車)導入を積極的に推進しており基準年度で全車両のうち60%、今年度で71%まで高めました。総量管理(ヴォリューム)を補完する指標として原単位管理(km/ℓ)や環境効率指標(完成工事高当りの排出量等)による評価を行いながら、あくまで総量を減らす取組み目標を設定します。
- ★廃棄物排出量は、工事の種類による影響が大きく、工事業者が主体的に縮減する余地は少ないので、定量的削減目標は設定できません。要は、工事現場における塗料等の残材を極力抑えるなど排出量の削減に努めることが重要です。環境方針に掲げた3Rは、これを積極的に推進します。
- ★'19、'20、'21年度の削減目標は現時点での中期目標です。

18年度CO2排出量目標=218,376kg-CO2 (基準年度比2%減)

- '18年度のCO2排出量目標値は上記のとおりですが、CO2の総量管理の補完として環境効率指標(完成工事高当りの排出量等)による評価も行います。
- ★溶剤系塗料から水系塗料への変更や光触媒系塗料、遮熱塗料の採用等により環境に配慮した施工方法と完成物件の提供を進めます。
- ★環境方針にグリーン購入の推進を加え、購入の際環境物品等を選択するよう努めます

2018年8月30日 :2018~21年度目標設定

久保田建装株式会社 環境管理責任者

5. 2018年度(2018年7月～2019年6月)環境活動計画

環境目標 (対2015年度)	達成手段	実施責任者	実施担当者	実施スケジュール													
				7月	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6		
CO2削減 電力の削減 目標(-1%)	節電運動推進者	環境管理責任者															
	節電運動展開	各支店長	各事務担当	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
	太陽光活用	〃	〃	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
	不要照明消灯	〃	〃	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
	自然風取入	〃	〃	⇒	⇒	⇒	⇒	*	*	*	*	*	*	→	→	→	→
	エアコン22/28、フィルター洗浄	〃	〃	⇒	⇒	⇒	*	→	→	→	→	→	→	*	*	*	*
	便座節電	〃	〃	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
ガソリン削減 目標(-1%)	燃費向上運動推進者	安全運転管理者															
	ふんわりアクセル	各支店長	各運転者	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	加減速の少ない運転	〃	〃	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	減速時早めにアクセルを離す	〃	〃	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	適切なエアコン使用	〃	〃	⇒	⇒	⇒	*	→	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	*	*	*	*
	無駄なアイドリングはしない	〃	〃	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	目的地までのルートを事前確認し余裕のある運転	〃	〃	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	タイヤ空気圧を月1回スタンドで確認	〃	〃	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	不要な荷物が無いか週1回確認	〃	〃	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	違法駐車をしない	〃	〃	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
月末に走行km報告時、レシートで燃費を確認など	〃	〃	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	
都市ガス 目標(-1%)	暖房管理推進者	環境管理責任者															
	暖房の控え目使用	各支店長	各事務担当	*	*	*	*	→	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	*	*	*	*
紙 目標(-1%)	紙使用量削減推進者	環境管理責任者															
	両面印刷の推進	各支店長	各事務担当	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	裏面の活用	〃	〃	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	コピーミスの防止	〃	〃	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	不要コピーの防止	〃	〃	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	分別による古紙リサイクル	〃	〃	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	使用済み封筒の利用	〃	〃	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
節水 水道水の削減 目標(-1%)	節水推進者	環境管理責任者															
	節水呼びかけ	各支店長	各事務担当	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
環境に配慮した 施工提案・実施	環境配慮型施工提案推進者	各支店長															
	環境配慮型施工提案	〃	各工事担当	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
グリーン調達	グリーン調達推進者	環境管理責任者															
	事務用品、日常品等	各支店長	各事務担当	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→

【重点項目】

- ①電力の削減 福島第一原発事故に端を発する電力需給の逼迫から節電要請が強まっており、本社及び各支店はこれに応えるべく更なる節電に取り組む。
- ②ガソリン削減 事業活動から必然的に車両への負荷が年々大きくなっており、省エネ運転の重要性はますます大きくなっている。省エネ運転の各項目を今一度点検し、運転者各人の省エネ運転の更なる向上を図る。
- ③紙使用量削減 特にコピー用紙は毎日かなりの枚数を使用するので日々の積み重ねが大きい。マンネリ化を避け、その都度不要なコピーはないか等をチェックするよう心がける。

初版: 2018年8月30日

久保田建装株式会社 環境管理責任者

6. 環境目標の実績

(1)環境目標(対基準年度)及び実施年度実績比

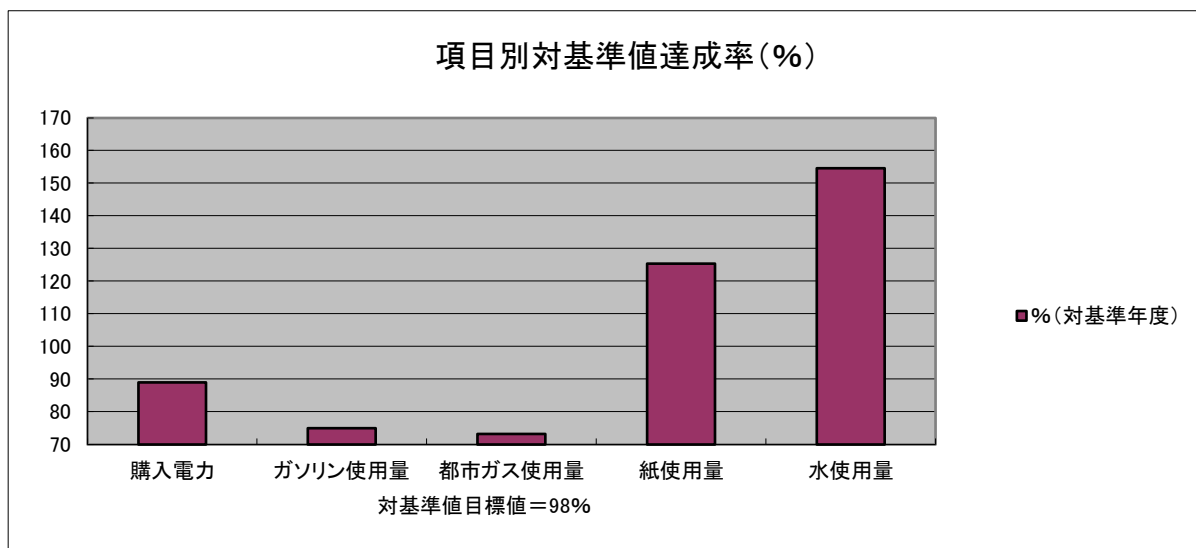
【表 I】

(基準年度=2015年度、実施年度=2018年度)

項目	単位	基準値	目標		実績値	達成率 (対基準年度)
			%	目標値		
購入電力	KWH	71,335	-2	69,908	63,498	89.0%
ガソリン使用量	ℓ	79,800	-2	78,204	59,756	74.9%
都市ガス使用量	Nm ³	846	-2	829	619	73.2%
紙使用量	kg	760	-2	745	952	125.3%
水使用量	m ³	506	-2	496	782	154.5%
廃棄物排出量	トン	***	3 R		3 R	3 R

上記の【表 I】は、環境目標について項目別に表示したものです。購入電力、ガソリン使用量、都市ガス使用量で目標達成し、紙使用量で125.3%、水使用量で154.5%と大幅未達となりました。ガソリン使用量は、2013年度よりエコカーを積極的に導入(全体の3割・10台)してから、継続して每期導入、今期も第1四半期に1台、第4四半期に3台導入し現状25台、全体の81%がエコカーとなり、後述する原単位(km/ℓ)を低下することができました。なお、下の【図 I】は【表 I】をグラフ化したものです。各個別項目の環境目標の実績については、以下に順を追って記述します。

【図 I】



①購入電力

実施年度の対基準値達成率は89%であり、目標値98%に9%達成となりました。浜松支店の基準値68%、名古屋支店76.4%、沼津支店83.1%と大幅に節電・達成しましたが、本店103%、東京本社105.8%と基準値を上回りました。東京本社は社員寮として現状利用、本店は基準年度より3名の人数増が未達要因です。

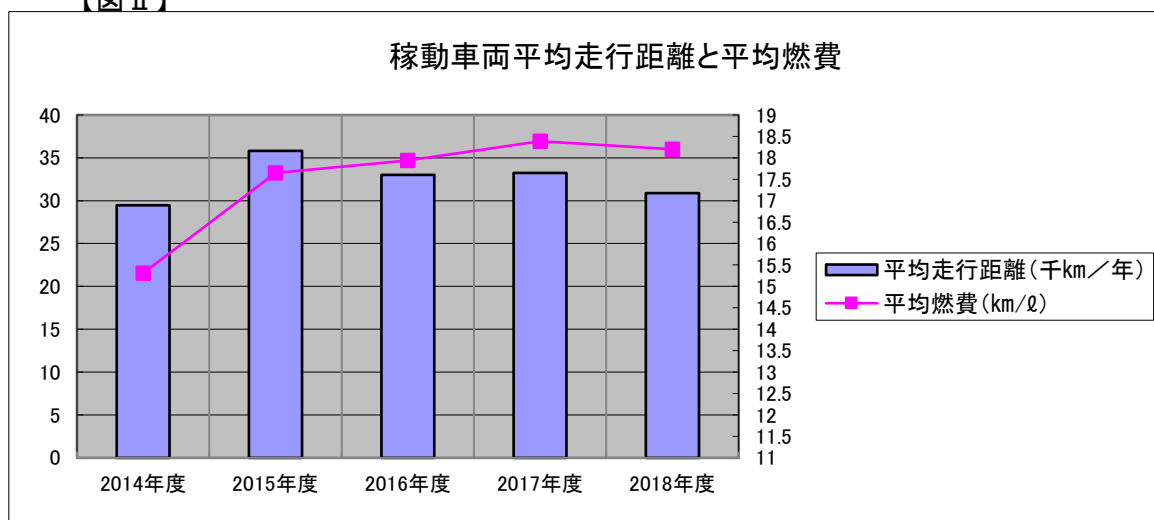
②ガソリン使用量

実施年度のガソリン使用量は基準値比89.0%と目標達成となりました。冒頭に記述した2013年度からのエコカー大幅導入により、現状31台の車両数のうち25台がエコカーとなっています。基準年度の総走行距離に対し、実施年度は86.2%となっており、燃費向上効果よりはむしろこちらの影響が多くありました。今後も買替え時のエコカー導入を進め、日常の省エネ運転を手順書項目毎に徹底し、ソフト面での努力も積み上げていき、目標達成に向け着実に向上していきたいと思えます。下の【表Ⅱ】及び【図Ⅱ】は稼動車両の平均走行距離と平均燃費の推移を表したものです。原単位である平均燃費は、着実に向上しています。

【表Ⅱ】

項目	単位	2014年度	基準年度 2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
稼動車両数	台	36	35	33	34	31
稼動車両平均走行距離	km/年	29,471	35,829	33,003	33,236	30,873
稼動車両平均燃費	km/ℓ	15.31	17.65	17.94	18.39	18.2

【図Ⅱ】



③都市ガス使用量

実施年度の対基準値達成率は89.4%となり、目標達成しました。東京本社、名古屋支店で付属する居室で基準年度、寮使用していましたが、風呂焚き、冬季の夜間暖房使用を名古屋支店では無くなり、東京本社では落ち着いた(低下した)ことが主因です。

④紙使用量

実施年度の対基準値達成率は125.3%となり、目標に対し大幅未達となりました。近年、公共工事受注やマンション管理組合への大規模修繕工事提案・報告などで膨大な紙資料を印刷するケースが激増したことが増加要因です。2016年度、全部門で使用できる原価管理システム導入により受注伝票の紙出力が激減しましたが、今期は基準年度と同様の環境で減少要因にはなりませんでした。

⑤水使用量

実施年度の対基準値達成率は154.5%であり、大幅な目標未達となりました。沼津支店で338.2%と漏水による大幅増があり、他部門はすべて達成しましたが、今年度はこのような結果に終わりました。本年4月に漏水対策工事を実施したので来年度は通常の状態となる見込みです。

⑥廃棄物排出量

一般廃棄物は、分別による古紙リサイクル等おおむね良好な結果を得ています。産業廃棄物は、廃棄物の量・種類が工事によって大きく変動し、工事業者が主体的に縮減する余地は少なく、定量的に削減目標を定め評価するのは困難です。引続き、委託契約書、許可証、マニフェスト等の照合を行い、運搬、中間処理、最終処分が適法であり、資源の再利用等も適正であることを確認しました。

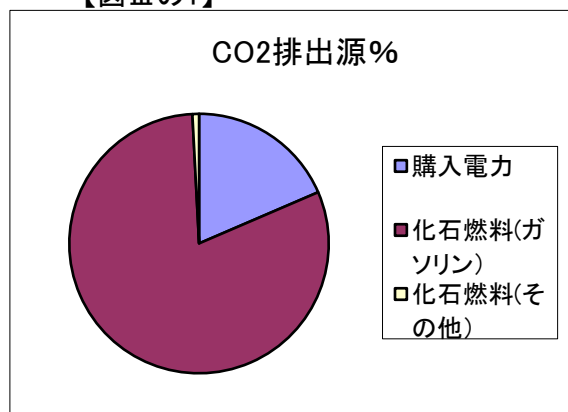
(2) 二酸化炭素削減目標(対基準年度)及び実施年度比

【表Ⅲ】

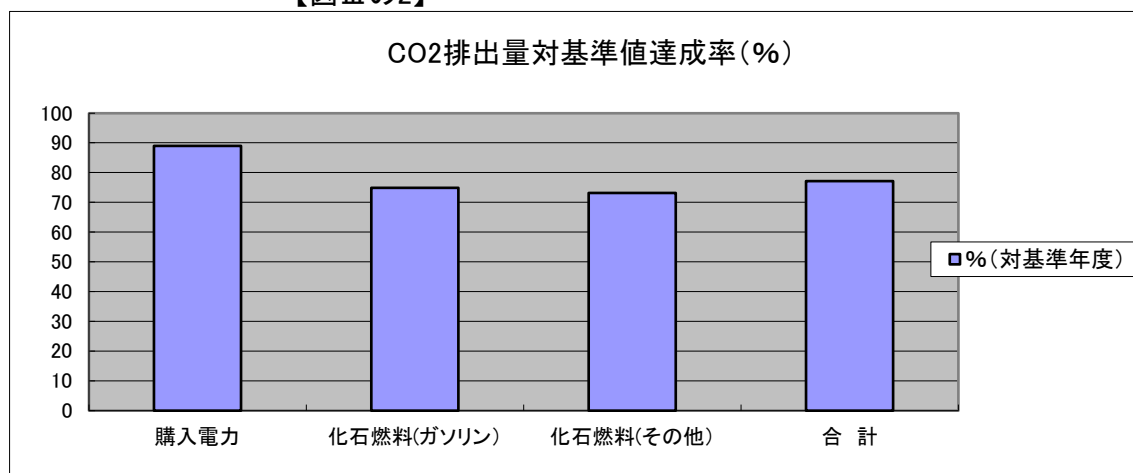
CO2排出源	単位	基準値		%	目標値		実績値		達成率 (対基準値%)
		排出量	割合		排出量	割合	排出量	割合	
購入電力	kg-CO2	35,673	16.0	-2	34,960	31,756	18.5	89	
化石燃料(ガソリン)	kg-CO2	185,269	83.2	-2	181,564	138,734	80.7	74.9	
化石燃料(その他)	kg-CO2	1,891	0.8	-2	1,853	1,383	0.8	73.1	
合計	kg-CO2	222,833	100	-2	218,377	171,873	100	77.1	

(注)購入電力の排出係数は環境省発表の平成26年度の電気事業者ごとの実排出係数を採用。
(東京電力⇒0.505 中部電力⇒0.497)

【図Ⅲの1】



【図Ⅲの2】



上記の【表Ⅲ】及び【図Ⅲの1】【図Ⅲの2】はCO2排出源別に基準値、目標値、実績値、達成率を表したものです。これからも分かるように、実施年度のCO2排出量は77.1%となり、目標を20.9%下回る大幅な目標達成となりました。

全体の排出量の80.7%を占めるガソリン使用量で23.1%下回る目標達成、18.5%の購入電力が9%の目標達成、比率は僅かなものの都市ガスでも目標を達成しました。

ガソリン使用量は売上で基準年度の116.2%と事業規模が拡大しましたが、人員で4名減の91.1%、車両台数が4台減の88.6%、平均走行距離も86.2%と減少、平均燃費は103.1%と向上し目標達成に大きく貢献しました。

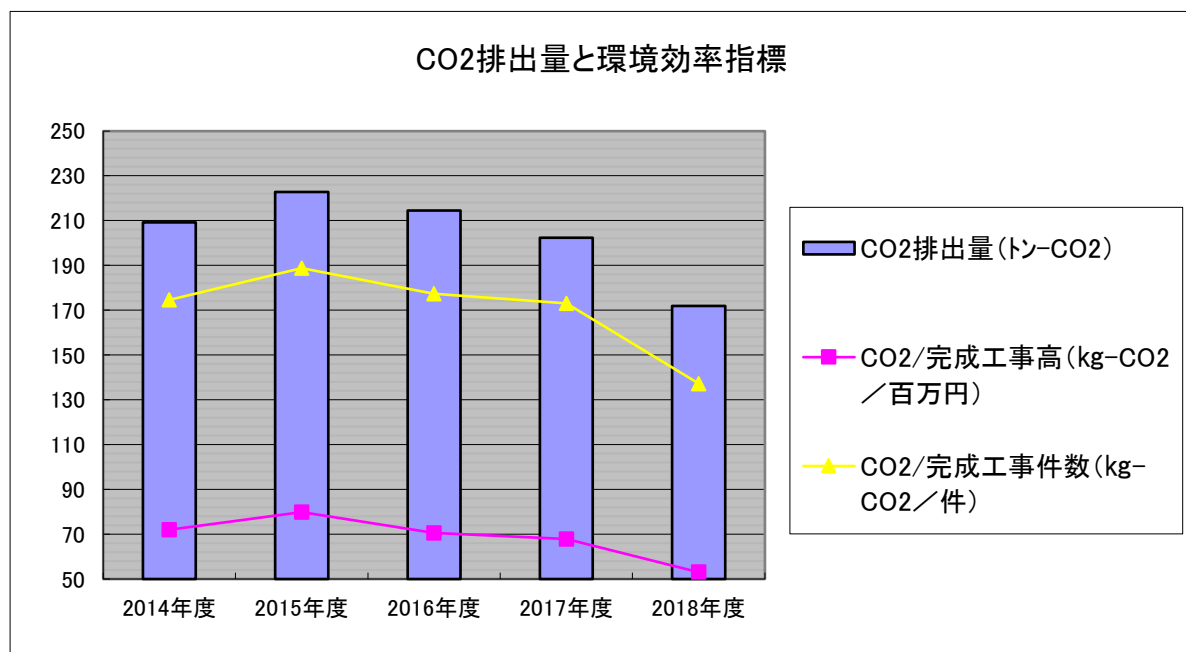
(3) 二酸化炭素排出量と環境効率指標

CO2排出量は、総量(ボリューム)管理では事業の変動による増減部分と節約行動による部分と区別・評価できないので、環境効率指標を併用するようにしました。下の【表Ⅳ】【図Ⅳ】は環境効率指標の推移を表したものです。

【表Ⅳ】

項目	単位	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
CO2排出量	kg-CO2	209,175	222,833	214,391	202,291	171,873
人員	人	44	45	45	44	41
完成工事高	百万円	2,907	2,788	3,043	3,052	3,239
完成工事件数	件	1,198	1,180	1,209	1,169	1,253
CO2/人員	kg-CO2/人	4,754	4,952	4,764	4,598	4,192
CO2/完成工事高	kg-CO2/百万円	72	79.9	70.5	67.8	53.1
CO2/完成工事件数	kg-CO2/件	174.6	188.8	177.3	173	137.2

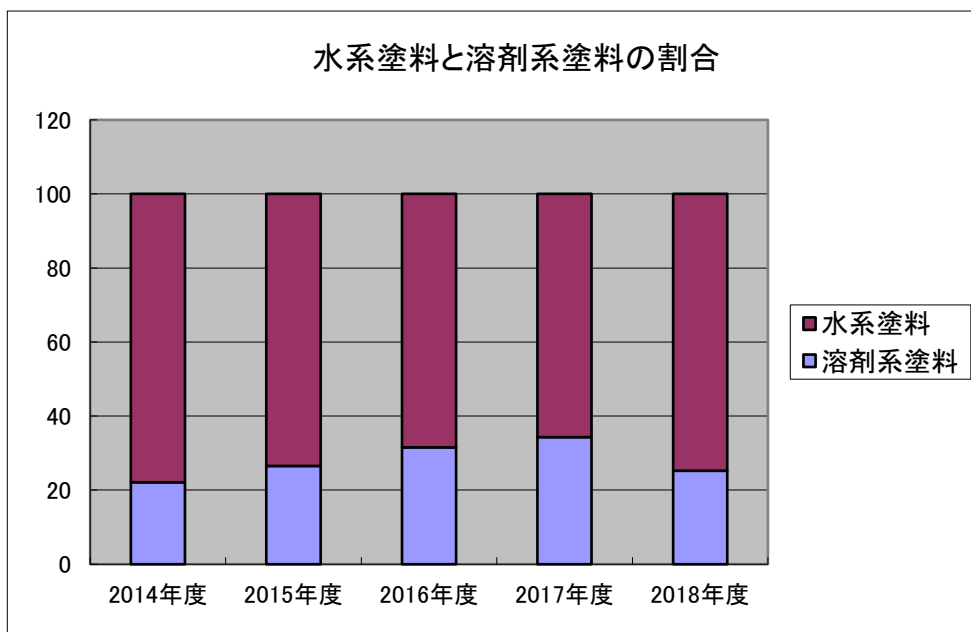
【図Ⅳ】



(4) 環境に配慮した施工方法と完成物件の提供

2018年度は水系塗料の使用比率が基準年度・前年に対して増加し、光触媒施工においては2012年度から続いていた某住宅メーカーの光触媒塗料仕様が昨年度実績0となりましたが、今年度は再び増加に転じました。遮熱塗料施工は2014、2015年度がピーク、2016年度はほとんど実績がなくなり、今年は2件、6百万の実績となりました。塗装工事の仕様は予算・目的(防錆など)によって使用塗料が決定され、遮熱塗料も色目によって、暗色では効果が期待できなかつたり、遮熱と謳っていない通常の塗料でも白色では同等の効果が期待できる施工結果もありますので、数値目標は定めず、あくまで施工状況の中でできるだけ環境に配慮した施工をこころがけることを改めて従業員間で共有しました。

年度	塗料使用割合		環境に配慮した施工方法の件数及び金額					
	溶剤系塗料 (%)	水系塗料 (%)	光触媒塗料		遮熱塗料		その他塗料	
			件数	金額(百万円)	件数	金額(百万円)	件数	金額(百万円)
2014	22.1	77.9	39	56	7	52	0	0
2015	26.5	73.5	23	24	4	53	0	0
2016	31.5	68.5	11	9	1	1	0	0
2017	34.3	65.7	0	0	4	27	0	0
2018	25.2	74.8	25	13	2	6	0	0



7. 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

環境活動計画(CO2-6%の達成手段)	取組み結果とその評価		次年度の取組内容
	評価	取組結果	
【購入電力】		実施責任者⇒環境管理責任者・支店長、実施担当者⇒各事務担当者	
節電運動展開	3	環境活動チェックシートから平均的な評価点は左記のようになります。	・エアコン22/28の徹底。 ・太陽光活用。 ・不要照明の消灯。 ・自然風取入。
太陽光活用	3	評価としては「エアコン22/28、フィルター洗浄」以外の項目で“良好”でした。	
不要照明消灯	3	浜松支店・名古屋支店の大幅減が奏功し、沼津支店も減、東京本社	
自然風取入	3	寮施設の生活使用において増、本店も基準年度と比較して3名の増員	
エアコン22/28、フィルター洗浄	2	により増加となりました。全体としては基準年度に対して89.0%	
便座節電	3	(目標値99%)と良好な結果でした。	
【ガソリン使用量】		実施責任者⇒安全運転管理者・支店長、実施担当者⇒各運転者	
ふんわりアクセス	3	環境活動チェックシートから平均的な評価点は左記のようになります。	・車両負荷の増大につれ、ますます省エネ運転は重要になるので、運転者各人に対しこの点の自覚を求め、更なる省エネ運転の浸透を図る。 ・車両入替時においては省エネ投資(エコカーの導入)を積極的に推進する。 各自の努力目標を次年度も設定して頂き、実績を四半期ごとに報告、モチベーションを維持していきたい。
加減速の少ない運転	3	適切なエアコン使用、タイヤ空気圧の点検について概ね良好(2)の	
減速時早めにアクセルを離す	3	自己評価が散見され、ほかの項目においては良好(3)の自己評価	
適切なエアコン使用	2	となりました。	
無駄なアイドリングはしない	3	今期も各自に省エネ運転の努力項目を設定して頂き、現状の実績を	
目的地までのルートを事前確認し余裕のある運転	3	四半期ごとに報告、結果として目標値をクリアした社員は11名、前年	
タイヤ空気圧を月1回スタンドで確認	2	実績をクリアした社員は10名に及びました。	
不要な荷物が無いか週1回確認	3	原単位(燃費)としても、17.65km/ℓから18.20km/ℓへと0.55km/ℓ基準	
違法駐車をしない	3	値に対して向上しました。	
月末に走行km報告時、レシートで燃費を確認など	3	対基準値達成率は74.9%(目標値98%)でした。	
【都市ガス使用量】		実施責任者⇒環境管理責任者・支店長、実施担当者⇒事務担当者	
暖房の控え目使用	3	環境活動チェックシートから平均的な評価点は左記のようになります。	・節電の代替暖房の許容範囲を超えないようにしたい。
		寮設備としての使用がありましたが、都市ガスの対基準値達成率は73.2%(目標値98%)と達成しました。	
【紙使用量】		実施責任者⇒環境管理責任者・支店長、実施担当者⇒事務担当者	
両面印刷の推進	3	環境活動チェックシートから平均的な評価点は左記のようになります。	・コピーミスの防止。 ・不要コピーの防止。
裏面の活用	3	コピーミスの防止、不要コピーの防止に概ね良好(2)の評価があり、	
コピーミスの防止	2	紙使用量の対基準年度達成率は125.3%と大幅な未達となりました。	
不要コピーの防止	2	今期は5年前からの傾向として大規模修繕工事提案・報告などで	
分別による古紙リサイクル	3	膨大な紙資料を印刷するケースが増加しており、原価管理システム	
使用済み封筒の利用	3	導入により受注伝票のFaxがなくなった減少要因が基準年度にあり、	
		今期は仕組上の減少要因はありませんでした。	
【水使用量】		実施責任者⇒環境管理責任者・支店長、実施担当者⇒事務担当者	
節水呼びかけ	2	環境活動チェックシートから平均的な評価点は左記のようになります。	・水道設備の定期点検(2回/年)の実施。
節水コマ取付	3	沼津支店の漏水という要因があり、他部門はすべて目標値をクリア	
		しましたが、水使用量の対基準年度達成率は154.5%と、大幅な目標	
		未達となりました。	
【環境に配慮した 施工提案・実施】		実施責任者⇒環境管理責任者・支店長、実施担当者⇒営業担当者	
環境配慮型施工提案	2	環境活動チェックシートから平均的な評価点は左記のようになります。	引き続き環境配慮型施工提案の励行。
		光触媒塗料が某住宅メーカーの受注が復活となり25件13百万、遮熱塗料は2件、6百万円の施工実績となりました。	
【グリーン調達】		実施責任者⇒環境管理責任者・支店長、実施担当者⇒事務担当者	
事務用品、日常品等	3	グリーン調達は再生品が割高等という難点があり、一部に限定されて	・グリーン調達のPR。
		いるのが現状です。	

(注) 評価項目の評価 不十分⇒1 おおむね良好⇒2 良好⇒3

● 次の13ページに環境目標の取組状況を記載しました。

環境目標の取組状況

(2018年7月～2019年6月)

綱 目	実施日	取 組 内 容	担当者他
クールビズ実施	18/5/1～	各自治体の呼掛けに呼応し実施	全 員
エコ21登録更新審査	18/4/25	審査人により中間審査を受ける	関係者全員
2017年度環境活動 四半期レポート(3Q)作成	18/5/15	2017年度第3四半期環境活動の評価 5/23幹部会議で発表・質疑応答	関係者全員
環境活動レポート11版作成	18/8/30	2017年度環境活動取組結果の評価 9/19幹部会議で発表・質疑応答	関係者全員
グリーン(省エネ車)購入	18/8/31	トヨタ アクア(ハイブリッド車)	社 長(決裁) 総務部(管理)
小さな親切運動 平成30年度「安倍川ク リーン作戦」	18/11/18	静岡市中心街の清掃	静岡本店社員
ウォームビズ実施	18/12/15～	各自治体の呼掛けに呼応し実施	全 員
2018年度環境活動 四半期レポート(2Q)作成	19/2/20	2018年度第2四半期環境活動の評価 2/21幹部会議で発表・質疑応答	関係者全員
グリーン(省エネ車)購入	19/4/23	トヨタ カムリ(ハイブリッド車)	社 長(決裁) 総務部(管理)
エコ21登録更新審査	19/4/24	審査人により更新審査を受ける	関係者全員
クールビズ実施	19/5/1～	各自治体の呼掛けに呼応し実施	全 員
2018年度環境活動 四半期レポート(3Q)作成	19/5/21	2018年度第3四半期環境活動の評価 5/22幹部会議で発表・質疑応答	関係者全員
グリーン(省エネ車)購入	19/6/26	トヨタ カローラフィールダー(ハイブリッド車)	社 長(決裁) 総務部(管理)

8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

(1) 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果

当社に適用される環境関連法規等の遵守状況を下記により確認した結果、全て適法に行っており違反はありませんでした。

【廃棄物処理法】 ①委託契約の確認 産業廃棄物処理委託契約書(処分用)、産業廃棄物処理委託契約(収集運搬用)等について、事業所責任者及び工事担当者により確認。 ②委託先の許可証の確認 産業廃棄物処分業許可証について、事業所責任者及び工事担当者により確認。 ③処分場の確認 産業廃棄物積替・保管施設、産業廃棄物中間処理施設(廃プラスチック、金属くず、木くず、コンクリート等の破碎、圧縮、切断)、産業廃棄物最終処分場等について、それぞれ適正に処理されていることを確認。 ④マニフェストの確認 受理したマニフェストについて、各事業所責任者及び工事担当者により、廃棄物が発生した都度適正に処理されていることを確認。
【自動車リサイクル法】 ①該当車両はない。
【フロン排出抑制法】 ①第1種特定製品の簡易点検表にて年4回の点検を実施している。
【浄化槽法】 ①浄化槽保守点検記録表及び浄化槽清掃完了届にて沼津支店事業所責任者により確認。
【労働安全衛生法】 ①屋内やタンク内面等における有機溶剤系塗料の塗装工事については、排気・換気装置の設置、粉じん・防毒マスクの着用等を実行している。 ②工事担当者は下請業者を含めて全員について有機溶剤法定健康診断を実施している。
【騒音規制法】 ①低騒音の空気圧縮機等により、本法及び条例等に定める指定区域毎・時間帯毎に定められた規制基準以下を遵守している。
【悪臭防止法】 ①臭気の著しい塗料を使用しない等、本法及び条例等の基準を守っている。
【建設リサイクル法等その他】 ①建設リサイクル法 元請業者として本法の適用となる規模以上の該当工事はない。 ②PRTR法 取扱業者に該当しないが、本法適用の指定化学物質を含むシンナーや有機塗料を使用しているので、SDSを受理し適正に取り扱っている。 ③消防法 本法及び条例等の指定数量以上の取扱いはない。

(2) 訴訟等の有無

過去3年間に於いて関係機関からの指摘、利害関係者等からの訴訟はありませんでした。

2019年8月23日
久保田建装株式会社 環境管理責任者

9.代表者による全体評価と見直しの結果

2011年3月に発生した東日本大震災と東電福島第一原発事故により、わが国のエネルギー事情は一変しました。原発に代わる火力発電所からのCO2増加は、国家的課題として認識され、今に至っております。このような現状において、私たちも家庭や会社において省エネ活動を実践し、社会人、企業人としての役割を果たしていきたいと思っております。

さて、2018年度のEA21取組結果ですが、取組から12年が経過しマンネリ化傾向を打破すべく、2016年度より対基準年度を2011年度から2015年度に変更、2014年度より特にガソリン使用量について各社員の個人目標・行動指針を自発的に設定して頂き、四半期ごとに進捗をフィードバックし、モチベーションの向上を図りました。その甲斐もあり、2018年度はガソリン使用量において対基準年度74.9%（目標98%）を達成致しました。また、都市ガス使用量73.2%（目標98%）、電気使用量89.0%（目標98%）と達成しました。然しながら、水使用量・紙使用量についてはそれぞれ154.5%、125.3%と大幅な目標未達となりました。

目標達成したガソリン使用量は、省エネ車（ハイブリッド車、無段変速車）を全体車両の約3割にあたる10台を2012年度に導入、その後毎年継続導入し、2018年度も3台導入、ハード面での使用量削減対策を実施しております。

当社のCO2排出量の約80%はガソリン使用量からのもので、この対策は最重要課題です。

年度末時点で省エネ車は25台、全体の80.6%となり、原単位（km/l）は車両平均で基準年度（2015年度）より3.0%向上、導入スタート時（2012年度）からならば18.0%向上しており、ハード面での対策は今年度までに十分効果をあげています。

都市ガス使用量、電気使用量、水使用量については寮施設での生活利用、老朽化した給湯設備の漏水等、環境要因によって努力要因が覆ってしまうことがあります。見極めをしながら、環境活動に取り組んでいきたいと考えます。紙使用量についても、業務で必要な印刷は致しかたないとしても、チェック項目の基本行動は徹底すべきです。

2014年度より実施している会社内部の環境コミュニケーションの一環として、省エネ運転の手順書を基に重点行動を各個人に申告して目標燃費を定めた取組は、2017年度・2018年度とも効果があり、2018年度は31台中10台の前年燃費をクリア、目標達成台数も11台となりました。

2019年度以降もこの取組を継続し、目標達成に向けて進捗状況を四半期毎に報告、PDCAサイクルを継続していきましょう。

一方、産業廃棄物の環境法規制について委託先との文書、処分場等の検証を行い、当然とはいえ違反がないことを確認しました。この種の取組は、法令順守の立場から怠ってはならないことであります。当社に関連する他の環境関連法規等についても、いろいろな環境におけるリスク管理、教育、事前打合わせ等を徹底し、法令違反や事故がないようにしなければなりません。

2018年度の活動について上記に状況を詳述しましたが、内部環境コミュニケーションを充実させ、環境活動計画の各取組項目を徹底すれば、現状の環境方針・環境活動計画・環境経営システムは十分有効です。今期の方針・活動計画・経営システムについては来期も適用致します。

来年度（2019年度）は新たな基準値を設定した5年計画の4年目となります。

従来の経験と実績を基に来年度も目標達成に向かって努力していきましょう。

2019年8月23日

久保田建装株式会社

代表取締役社長 大石 剛

